

## うみねこ堂書林

先日神戸に行く機会があった。元町あたりでお土産を買いながら、街の中を行ったり来たりする中で、ある書店に目が止まった。黄色い看板には青い文字で「うみねこ堂書林」と書いてある。外から覗くだけで、棚という棚に本がぎっしりと置いてある様子が伺える。

その時の私は両手にお土産の袋を携えていて、がさがさと入っていき積まれている本にぶつかったらどうしようと入店するかどうかを迷っていた。

入り口の引き戸を開けて、半身を店の中に入れて、中を見回すと店の奥のカウンターに人の頭がちょこっとだけあるのが見えた。入り口でもたもたしている不審な私に目もくれず、ただ頭頂部だけが見えていた。

見回すと、日本の作品だけでなく洋書や翻訳の作品も発見した。そして新しく仕入れたコーナーには立派なジェイムズ・ジョイスの翻訳作品がズラッと置いてあった。思わずその中の一冊、「若き芸術家の肖像」を手にとった。両手のお土産は路肩に置いた。ターコイズブルーのその本は中を開くとクローバーが薄らと印刷されている。アイルランドやジョイスを感じさせる装丁が印象的で、買うことを決めた。店内の本を崩さないようにカウンターへもっていくと、お店の方がひょっこりと顔を出して、微笑んだ。

「これはねえ、ジョイスが難しいことを五編にわたって言うてるんですわ。」

お会計をしながら言う。

神戸なまりで、さらりとジョイスを一言で捉えていたのが印象的だった。そして、読んでいるからこそその一言だとその人の表情をみながら思った。

この本屋さんにまた来たいなあと思った。

私は東北に住んでいるから、頻繁に来ることは難しいけれど、次はいつ行こうかな、再び訪れるその時にはどんな本に出会えるだろうか。と次のことを考えながら、お店を後にした。

